

東海テレビ

サステナビリティレポート 2025

mirai ミライ サク saku



vol.

03

TOKAI-TV
SUSTAINABILITY
REPORT 2025



東海テレビ
ONE-FAN

Message

「わたしたちにできること」。

この合言葉のもとで、
東海テレビは様々な社会課題に
取り組んでいます。

東海テレビは1958年の開局以来、社会で暮らす人々が心豊かに暮らせるための手助けをしたいとの思いから、様々な番組制作やニュース報道、イベント開催等に取り組んできました。さらに、「東海テレビ福祉文化事業団」や「東海テレビ国際基金」等を設立し、社会貢献活動にも積極的に取り組んできました。

こうした長年の活動に加え、社会課題の解決には何が出来るかをつねに考え、地道に実践していくことが、わたしたちローカル局が存在する意義だと考え、時代に合わせた社会貢献活動や社会課題の解決に取り組んでいます。

すべての局に配置したCSR推進担当者を中心に、2025年からは「スモールミーティング」という形で、従業員の思いやローカルメディアとしての課題を共有し、より地域の皆さまに、そして世の中に価値を感じてもらえる仕事ができるよう邁進しています。CSR推進担当者の多種多様な発想から、いくつかの新たなCSR・SDGs活動が生まれ、それが東海テレビのアイデンティティーになりつつあります。

そうした中で、「わたしたちにできること」という合言葉から生まれたひとつの形が、2024年に発生した石川県・能登の地震による被災地の復興支援です。私たちはかつて「昼ドラ」として親しまれた、ドラマ「花嫁のれん」というシリーズを、この地を舞台に制作、放送してきました。ロケでお世話になった能登の人たちやエリアの復興に、ローカルメディアとして何かできることがないか、東海テレビの「わたしたちにできること」は何か、という思いから社内のみならず社外の企業とも協力し、コンテンツの力で被災地のみなさまに希望をつなげていきたいと考えています。

これからもCSR活動を通して、東海テレビの思いをアイデアと工夫を駆使して、カタチにしていきたいと思っています。地域のみなさまとの関係は、長きに渡り築いてきた「信用」と「信頼」の上に成り立っています。「信頼」なくして、私たちの仕事は成り立たないことを胸に刻み、東海テレビの強みを活かした社会課題の解決と地域の発展に貢献し続けます。

東海テレビ放送株式会社 代表取締役社長

林 泰敬



東海テレビのCSR推進体制

メディア企業としての社会的責任を果たすため、2021年にCSR推進チームを発足しました。2023年には局内すべての部局にCSR推進担当を配置し、本業を通じた社会課題の解決、地域に根差した社会貢献活動、そして大切なステークホルダーの一つである従業員とのエンゲージメント向上を柱に、全社的なCSR推進に取り組んでいます。



Photo:2025.8.21 CSR推進チームキックオフミーティングにて

東海テレビ ONE-FAN

One Fan / One Fantastic / One Fun

ONE-FANは
ONE=ワン(東海テレビ、1、初心、スタート)
FAN=ファン(応援、支持者)
ファンタジー(夢、物語)
FUN=ファン(楽しさ)を組み合わせた言葉。

私たちはまっすぐな姿勢で歩み
年齢・性別・価値観の違いを超えて
あらゆる人へ届けていく。

素晴らしい地域の魅力
心を揺さぶるワクワクやときめき
日常を支える情報や価値観
明日へ一歩を踏み出す勇気を。

地元を応援し、応援される会社へ。
ONE-FAN 東海テレビ

東海テレビは、コンテンツやイベントなどを通じて、
感動や笑顔、安心を地域に届けてきました。
これからも人々の心に寄り添い、社会課題と向き合いながら、
暮らしに役に立つ情報や想いを、発信し続けていきます。

新たなONE-FANに届け…!

番組に親しみを、天気に興味を…。「ニュースONE」では、福島智之気象予報士のお天気コーナー『ふく天』で新たな試みを始めています。週1回の中継に加え、気象現象を再現する実験や料理紹介などを通じて、新たなFANの獲得を目指します。ドキュメンタリーでは、豊田市の保見団地を取材し多国籍社会を見つめ直した「ブラジル団地 ふるさとは二つ、世界は一つ」(2025年5月29日OA)や、失われつつある伝統工法を守る大工を追った「どえらい大工」(2025年3月30日OA)を放送し、既存のFANにも深く届くコンテンツを継続的に届けています。



「ブラジル団地 ふるさとは二つ、世界は一つ」



「どえらい大工」

毎日イチバン近くに!

生活情報番組「スイッチ!」「スイッチ!サタデー」では、東海地方のグルメやおでかけスポットなど、暮らしを豊かにする情報発信に加え、地域活性化につながる企画作りにも取り組んでいます。昨年は、名古屋市の久屋大通庭園フラリーで家庭でも楽しめる園芸の魅力を紹介する「スイッチ!ガーデン」や、食品ロス削減、廃材リサイクルなど地域のSDGsの取り組みもシリーズで紹介しました。地域の魅力と新たな気づきにつながる情報を届けていきます。



コンテンツの力で“ONE-FAN”

「国民的マジックの祭典!」や「くらべるネタSHOW パカリズムのキリクチ」などの全国放送のバラエティをシリーズ化し、世代や地域を超え楽しめる番組作りをしています。また、「ぐっさん家」をはじめ、地域に根付いたバラエティにも力を注いでいます。さまざまなコンテンツを通じて、ワクワクやときめき、笑顔が広がるひとときをお届けしています。



高校生のエネルギーをお茶の間に!

新たに立ち上げた「青春REC」は、東海地方の高校を訪れ、生徒たちの“青春”をミュージックビデオとして記録する番組です。これまで東海地方の約30校を訪問し、現場で高校生たちから感じるまっすぐで大きなエネルギーを、お茶の間へ届けたいという思いで制作してきました。若者の挑戦や輝く瞬間を応援し、東海地方の魅力を発信することで、地域の未来を元気にしていきたいと考えています。





心を動かす、スポーツの力

愛知県の全54市町村が参加する「愛知駅伝」をきっかけに、駅伝界の名門・名城大学女子駅伝部が、15大会連続最下位の豊根村で練習会を実施しました。小中学校に陸上部のない村で、名門の選手たちが直接指導するという、スポーツのつながりが生んだ貴重な機会です。

普段は陸上に縁のない子どもたちも懸命に走り、その姿に選手たちも自然と笑顔に。練習会の様子は動画配信され、大きな反響を呼びました。地域や世代を超えて人の心を動かす、スポーツの力を改めて感じる取り組みとなりました。



イベントで誰かを応援したい

年間を通して、クラシックコンサートやミュージカル、スポーツ、飲食イベント、展覧会など、ジャンルを横断した多様なイベントを企画・宣伝・運営しています。情報発信においては、自社媒体であるテレビを活用したスポットや番組制作に加え、若い世代の情報取得手段であるSNSも取り入れながら、時代に合った伝え方を工夫しています。イベントという「体験」を通して、「ここに来ると楽しい」「元気になれる」「新しい一歩を踏み出してみたい」と感じていただける——そんな時間を届けることを大切にしています。



子どもたちの未来が明るいものになってほしいと願い、
様々な活動をしています。

地道な積み重ねが、やがて子どもたち一人ひとりの
可能性を広げていくと信じ、その一助となれたらと考えています。

社内見学会

東海地方の小学生(高学年)・中学生・高校生を対象に社内見学会を実施しています。「スイッチ!」のスタジオや副調整室、美術倉庫などを案内し、テレビ番組が放送されるまでの仕組みや、正しい情報を伝えることの大切さ、テレビの仕事に込められた思いを伝えています。探求学習や職場体験などの機会を通じて、地域の次世代育成に貢献しています。
2025年度実績:14校125名来社



アナウンサー読み聞かせ活動

子どもたちへの絵本の読み聞かせや高齢者に“伝わる話し方”や正しい発声・発音を伝える『音読ひろば』などを通じて、アナウンサーらが地域の方と直接交流しながら活動しています。世代を超えたコミュニケーションの活性化を図るとともに、当社に親しみを感じていただけるよう、人と人のつながりを育み、地域とのつながりを大切にしています。



ペットボトルキャップチャレンジ

ペットボトルのキャップを集め、世界の子どもたちにポリオワクチンを届ける活動を行っています。2021年1月の開始以来、社内に加え地域の企業や団体の皆さまにも支えられ、活動の輪が少しずつ広がっています。2026年2月現在で、ポリオワクチン580人分に相当する約50万個のキャップが集まりました。



東海テレビは、多様な個性や尊厳を大切にしながら、
長年にわたり社会貢献活動に取り組んできました。
誰一人取り残さない社会の実現に向け、これからもインクルーシブな社会への
理解を深め、地域社会とともに歩みを重ねてまいります。

東海テレビ福祉文化事業団

東海テレビ福祉文化事業団は、東海地方の社会福祉の増進と向上に少しでもお役に立ちたいとの
願いから、東海テレビ開局20周年にあたる1979年に設立された社会福祉法人です。
東海テレビおよび東海テレビ福祉文化事業団が年間を通じて展開している「愛の鈴しあわせ
キャンペーン」にお寄せいただいたご浄財で「障がい者福祉事業」「老人福祉事業」「児童福祉
事業」「社会福祉復興事業」「愛の鈴事業」を運営しています。



●東海テレビ「愛の鈴号」

障がい乗り越えて自立を目指す人たちに役立てて
いただくため、社会福祉に携わる東海3県1市の団体に
軽車両「愛の鈴号」を毎年お贈りしています。1982年から
続く「愛の鈴号」の贈呈は、今年度で44回目。贈呈車両数は、
今回の4台を合すると300台となりました。



●東海テレビひまわり賞

身体の不自由を克服して自立し、
社会に参画している身体障がい者
の方に「東海テレビひまわり賞」を
毎年顕彰しています。

1983年の東海テレビ開局25周年を
記念として始まった「東海テレビ
ひまわり賞」は今年度で43回目。
顕彰者は今年度の4名を加えて、
281名を数えることとなりました。
また、今年度も顕彰者の日常に寄り
添った特別番組「太陽のように」を
放送しました。



東海テレビ文化賞

東海テレビは開局10周年の1968年より、東海地方在住または関係が深く、多年にわたり社会、文化、
学術、産業などの各分野で功績のあった人や団体に「東海テレビ文化賞」を顕彰しています。今年度は、
フィギュアスケートインストラクターの山田満知子さんから5名に贈られました。



東海テレビ国際基金

東海テレビ国際基金は1994年に設立され、国際交流に取り組む団体への助成を通じ、意義ある活動を後押ししています。
また、多文化交流ワークショップなどを実施し、国際化が進む中、多様性を受け入れる社会づくりと次世代の国際理解の
促進に貢献しています。



FNS チャリティキャンペーン

FNSチャリティキャンペーンは1974年に設立され、FNS系列28社がユニセフを通じ、世界の子どもたちへの支援活動を
続けています。2025年度の支援国はマダガスカル共和国で、東海テレビでは、規格外の花を活用したチャリティイベントを
イッちゃーと実施するなど様々な活動を行いました。





制作局



事業局



スポーツ局

林社長と従業員の

スモールミーティング

大切なステークホルダーである従業員と

社長自らが対話する「スモールミーティング」を、
CSR推進チームの活動の一環として実施しています。

経営ビジョンの共有や現場の声に耳を傾けることで、

相互理解の促進やエンゲージメントの向上を

図るだけでなく、ローカル局としてのあるべき姿を

ともに模索しています。率直な意見交換の中からは、

職場の課題や改善策の提案も寄せられており、

今後も一人ひとりが自分ごととして業務に

取り組めるよう、継続的に実施していきます。



総合編成局



報道局



技術局



デジタルビジネス局



夏休み特別企画 東海テレビグループ ファミリーデー

従業員の家族がテレビ局の職場を体験し、働くことへの理解を深める夏休み企画として、今年はグループ会社の家族にも対象を広げて開催。「スイッチ！」オンエア中のスタジオや美術倉庫を見学し、ニュースキャスター体験なども行いました。さらに、自分の名刺を作成して上司や仲間と名刺交換を行うなど交流の時間も設け、働く上での相互理解を深め、働きやすい職場づくりを推進する機会となりました。



多様な力が活きる職場づくり

東海テレビでは人的資本を重要な経営基盤と位置づけ、多様な人材が力を発揮できる環境づくりを推進しています。2025年4月には男性の育児参画を促進する独自制度「すくすく休暇」を創設し、報道やスポーツ現場を含め取得実績が広がっています。(2025年度男性の育児休業等取得率:100%) 新卒採用では男女ほぼ同数(直近5年間平均:男性52%/女性48%)を継続し、女性の職域拡大を推進しています。また、社内に「みんな活躍推進チーム (DEI推進)」を設置し、柔軟な働き方の整備や意識改革を通じて、誰もが安心して働き続けられる組織づくりを進めています。



人権とコンプライアンス

2011年の『びーかんテレビ不適切テロップ問題』を機に、東海テレビでは働く一人ひとりがコンプライアンスを順守する企業風土の醸成に努めています。様々な研修会やコンプライアンスに関する会議を継続的に実施しているほか、昨秋には「東海テレビグループ人権方針」を制定、人権尊重を社内外に宣言しています。ハラスメントのない就業環境の実現を目指したアンケートの実施や、内部通報制度の拡充など、安心して働ける職場づくりと、挑戦を支える仕組みの整備を進めています。そして、良質なコンテンツやイベントを通じて、地域で最も信頼されるテレビ局であり続けることを目指してまいります。



ひとりひとりの ONE-FAN

テレビ局としての社会的責任を果たす。

その思いから、

社内には部署を横断した

CSR推進チームが編成されています。

先人の想いをつなぎながら、

私たちは、いま何を大切にし、

これから何をすべきなのか。

持続可能な未来に向けた

CSR推進チームのメンバーの

想いを紹介します。



ONE-FAN



事業部
北野 環

「東海テレビといえば応援したくなる、応援してくれる存在」と社内外に感じてもらえるイベントづくりに関わりたいです。まずは地域の方に「好きだな」と素直に思ってもらえるイベントを部署の垣根を超えて届けたいと考えています。



制作部
吉良 沙月

いつかやってみたいのが、東海テレビが主催するフェス！音楽、グルメ、お笑い、アート、ファッションなど、テレビだからこそできる雑多さが魅力のフェスを開催してみたいです。テレビを見てもらえるのが当たり前ではない今、私たちから視聴者の皆さんに直接会いに行ける機会をもっと増やしていきたいです。



スポット部
猪飼 健夫

東海テレビのファンが増えるように地元の皆さんが参加して一緒に作るドラマや一緒に作る新コンテンツを企画したいです！例えば市町村対抗ダンスリレーとか！イベント、放送、配信、SNSを連動してリアルな笑顔を皆さんと共有したいです！



制作部
伊藤 芳人

「テレビだからできることは何か？」最近よく自問します。その一環として、自社のアーカイブ映像を活用した高齢者向けコンテンツの制作に注力しています。多メディア時代だからこそ、テレビの価値を再定義し、強みを生かした社会貢献をしたいと思っています。



東京支社業務部
萩原 映一

日々の業務に追われていても、働く人すべてが、より良い仕事環境を目指して努力する、そういったマインドを忘れてはいけないと日々痛感しています。アンテナ高く、皆様と会社をよくするために何ができるか、話し合っていければと思います。



美術部
水野 亮

私はアートの分野で地域共生ができる企業気質を目指しています。主に未来を担う学生さんと何かできないか？と日々模索しております。もちろん「笑顔で楽しみながら」を基本にカラフルに溢れた世界観を目指しています！



報道部
足立 拓朗

ほんの些細なことでも、日々の小さな“改善”を積み重ねる姿勢を大切にしています。常に疑問を持ち、試行錯誤を重ねることで、やがて大きな成果につながると考えています。



コーポレートブランディング部
伊藤 あいか

地元名古屋への思いから東海テレビに入社しました。新タグラインの「ONE-FAN」。“推し活”全盛期の今、ひとつひとつの仕事に心を込めて、東海地方のみなさんの「推し」となれるよう頑張ります！



感謝される、頼られる存在でありたいです。テレビ局で働くと思っても多くの人と関わります。社内の人から外部の人まで関わり方も様々。そんな中でも軸足は一緒。少しでも相手の笑顔のためになるならば疲れることはないのです。

放送技術部兼映像制作部
白崎 雄大



ビジネスプロデュース部兼
コンテンツ事業部
深谷 弘

子どもたちの笑顔が弾けることも体験コンテンツや、学生の熱気溢れるライブ配信。日々の活動で大切にしているのは、次世代と共に『ワクワクする未来』を創ることです。枠にとらわれない挑戦を通じ、地域に愛される企業を目指します。



人や地域の想いに向き合い、伝え、つながることで笑顔や新しい価値が生まれる瞬間にやりがいを感じています。その一つひとつの積み重ねを力に、東海テレビだからこそできる創造と変革に挑み、社会、組織、人がいきいきと幸せでいられる未来を、強く、しなやかにつくってまいります。

CSR推進部
勅使河原 由佳子



「平凡の偉大さに徹せよ！」私の青年期【京都】の出身高校校訓です。テレビは「ちょっと特殊?!」でも開けてみれば「まじめに仕事してる」と生徒が反応。「未来の視聴者案内人」となり中高生社内見学とベットのキャップ集めと平凡に徹する日々でも「人々の役に立つ企業」をめざしていきます!

CSR推進部
谷口 雄二



総合編成部
五十嵐 悠介

「0.1%を削り出せ!!」の精神で、小さな積み重ねが近い将来、大きな結果になると信じて日々業務と向き合っています。今の部署では、46歳のオールドルーキーですが、各部署の皆さんが気持ちよく仕事ができるように黒子に徹したいと思います。



総務部
小金坂 政則

ここ数年続けている備蓄食の寄付は、食品ロス以外に生活困窮者支援にも役立っており、今では就労支援事業所を通じて障がい者の就労支援と賃金向上など社会貢献の一助となっています。今後も様々な活動を通じ、地域に愛される東海テレビを目指します。



アナウンス部兼CSR推進部
左野 俊哉

東海地方の各地で、「お腹から声を出して元気に!」をテーマに、音読の基本を幅広い年代の皆さまにお伝えする「東海テレビの音読ヒロバ」を開催しています。成人向けには、中日新聞に掲載されている「くらし作文」を教材としていますが、今後は子ども向けにも開催できないか、思いを巡らせています。



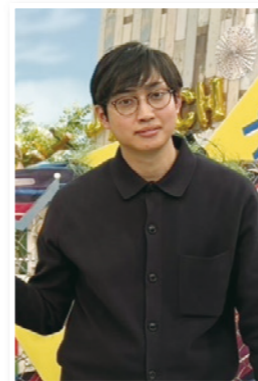
CSR推進部
白井 ゆり

社会貢献活動を通じて出会った方々との繋がりと学びや想いを大切に、地域や学生の皆さんと共に、人と人の心をつなぐチャリティ活動や社会貢献交流イベントを、丁寧に続けて挑戦していきたいと思っています。



経理部
安藤 尚子

「領収書はお早めに!」経理安藤です。日々意識している事は「自社の今まで通り」が「世間のスタンダード」に即しているか常に疑問を持つ事です。電子化も始まり慣れるまでご負担かけますが、どうぞよろしくお願いいたします。



東京コンテンツ事業部
後藤 慎介

テレビだけにとどまらず、配信とデジタルの力でより多くの人に東海テレビのコンテンツを届けたいです。誰かの日常を笑顔にできるエンタメコンテンツを作るため、挑戦を続けていきます。



スポーツ部
神谷 英政

地方局、スポーツにしかできないことの2点を意識して日々の業務にあたっています。ですが、地方局として小さくまとまらずに、新しいこと・人がやろうと思わないことを率先して実行するようにしています。そして、会社の新しい可能性を見つけていきたいです。



コンプライアンス推進部
長坂 典洋

社内の方に気軽に相談してもらえる存在になりたいと思っています。仕事を進めていけば、ミスやトラブルは当然あります。そんな時、一緒に考えて、悩んで、解決に向かえるような…そんな風になりたいと思っています。



報道局
伏原 健之

大きなことも、小さなことも。有名な人も、まだ知られていない人も。ひとりひとりの声に耳を傾け、世の中に届けていきます。「今」を伝えることは、未来をつくること。コツコツと積み重ねた映像が、次の時代へとつながっていく。それが私たちの仕事です。



編集後記

テレビは時代とともに変化をしてきました。

昭和は圧倒的な熱量と、今日より明日は良くなると思えた時代。そして、変わらないはずのテレビの価値が、変わることがあるのかも…と思い始めた平成。

令和の今は…予期せぬ様々なことが襲いかかり、憧れの対象やキラキラした存在ではもはやないという感覚とともに、自らその存在意義を問い直す時期に入っています。

私たちが大切にしてきた「つたえる」という仕事。

価値観の異なる世代が立場を越えて議論しながら、東海テレビは、地域で必要とされるメディアを目指し、その存在を感じてもらえる集団であり続けたいと思っています。



編集・発行

東海テレビ放送株式会社
社長室CSR推進部

〒461-8501 名古屋市東区東桜1丁目14番27号
代表：(052)951-2511